

# 玉川教会たより

NO. 457  
5月18日



▼またまたテレビ・アニメが再放送されていることを知り、懐かしく観た丁度その時、偶然『誠実な詐欺師』(トーベ・ヤンソン著、富原眞訳、ちくま文庫、1999年)を見つけた。1999年の刊行だが、そ

▼『ムーミン谷』のテレビ・アニメを、子どもと一緒に夢中になって観たのは、もう四半世紀以上も昔のことだ。原作の……という言い方も微妙だが、童話や絵本を読んだのは、それから更に10年ほど前のことになる。『彫刻家の娘』(トーベ・ヤンソン著、香山彬子訳、講談社文庫、1973年)などは、もう少し後だが、いつの間にか、トーベ・ヤンソンは遠く存在になっていた。

## ムーミン谷と信仰

▼「いまわたしはひとつの考えにとりつかれている。イエスをままとユダのことだ」子どもを口を通して語っているが、救いについての深い洞察は、アナトール・フランスが『ピカロスの團』(大塚幸勇訳、岩波文庫、1974年)で紹介するイスカリオテ教徒とても言つべき信仰、むしろ拘りを連想させられる。

▼その流れで、『トーベ・ヤンソン短編集』を読み、『カリン、わが友に出遭つた。ストーリー』に信仰者を描き、罪と救いを論じている。『ムーミン谷』を通じて、聖書・教会的背景をうすうす感じていたことではあるが、それを確かめることが出来た。

▼彼女(はじめてでもまず浴室にこもってひとりと、欲求不満が起る)。  
▼最も興味深いのは、『カリン、わが友における、従姉に当たるカリンの信仰だ。神ならぬものへの執着を絶つために、彼女は大好きな祖母から譲られた美しい金のドレスレットをも手放さざるをえなう。

▼「救いについてたまたひとつの道を信じ、さまざまとなるすべてから身をひく」という意味よ。例外なくすべてのもものからね」  
▼彼女(はじめてでもまず浴室にこもってひと

▼「口」叔父さん(にゆると、神をまといエス(まはゆるしの独占権)「ブーライト」をもっている。普通の人間のゆるしなんかどうしていふなうという意味の)。叔父さんがママにうたった。『まず罪悪感をかきたて、良心の呵責でたづぬいとなやませ、さいごに気高い心でゆるす、こころが人をゆるすといわれている代物』と。わたしにはなんの話かよくわからなう」  
▼僅か17頁の掌編だが、それぞれエピソード、興味惹かれる登場人物が、盛り込まれている。それらが『ムーミン谷』と同様にあつさりとしたスケッチで描かれる。牧師の祖父、その息子たち、一人は敬虔で有能な牧師、一人は無神論者。彼らをもっと詳しく知りた

▼「彼は厳寒の孤島に独り暮らしする老女と漂着したリスの話だが、これはカリンとも重なる。カリンと「わたし」は、従姉同士、真反対の性格のようで、実は双生児に近い存在なのかもしれない。

▼「彼は敬虔で有能な牧師、一人は無神論者。彼らをもっと詳しく知りた

▼「彼は敬虔で有能な牧師、一人は無神論者。彼らをもっと詳しく知りた

